



第52回民放労連全国女性のつどいin東京

女性からギョーカイを変えよう ～仕事も幸せもあきらめない～

ありがとうございました。来年、沖縄で会いましょう！～ご報告と写真～

〈1日目全大会〉

「第52回民放労連全国女性のつどい」が5月30日(土)、31日(日)に東京・品川で開催され、全国から民放各局で働く総勢167名が集まりました。テレビ東京労組の大江麻理子さんの司会で始まった全体会では、冒頭、境田恭子実行委員長が挨拶し、「特殊なギョーカイだからといって働き方も特殊でいいのか？昔ながらの男性社会であるからこそ女性からギョーカイを変えていきたい」とし、また『2020年に指導的地位に占める女性の割合を30%にする』という政府目標“2030”に触れ、「5年後の働き方はどうなっているのか、これを機に考えて欲しい」という提案がありました。続いて民放労連本部の赤塚オホロ委員長の挨拶では、今回基調講演を頂く小室氏が残業ゼロを提唱しているのに対し、政府は残業代をゼロにしようとしていることについて「残業代が出ないなら残業もゼロにするべき。これからはワークシェアリングが大切」とし、また「今こそ自分を、ひいては日本を見つめ直すゆとりを持つことが必要」との指摘を頂きました。
(テレビ東京労組 田畑美路子)

〈1日目基調講演〉

日本が働き方を変えなければいけない理由と変える方法～

女性のみならず、誰もが活力をもって社会で活躍するために必要不可欠な「ワーク・ライフバランス」について株式会社ワーク・ライフ代表取締役社長の小室淑恵さんにお話をいただきました。

現代の日本は、労働人口よりもそこに支えられる人たちの方が多い人口オーナス期。介護などでの時間的制約は女性特有のものではなくなり、男女ともに「限られた時間で最大の成果を出すスキル」が求められるようになりました。つまり、これまでは肩身が狭く感じていた働くお母さんも生産性で勝負できる土壌を作ることにつながります。小室さんの会社がこれまで労働時間の削減を指導した数百社にも及ぶ企業では、それを実現したことにより、仕事外の時間を資格取得や研鑽を積む時間に充てる従業員が増え、仕事の効率や質が上がり、業績が上がるケースがほとんどだそうです。小室さんはこれを「ワークとライフの相乗効果」と締めくくりました。“ワークもライフも一生懸命だからこそ、次への意欲につながる”というお言葉が印象的でした。放送業界にもこの風を吹かせたい...そう強く感じました。

(テレビ大分労組 田中愛佳)



〈1日目分科会①〉

「アベノミクスを斬る！」～人間による人間のための経済学

「『経済学は難しく分からない』と言われていたが、経済活動は人間が人間であることの証。分からなくてつまらないわけがない！」という言葉から始まった同志社大学大学院ビジネス研究科の浜矩子教授。「経済学の根源は人間を幸せにする活動」という先生の基本思想からいうと、「ブラック企業」という言葉はおかしい」とのこと。理由は、「企業という言葉に経済活動が含まれている、ブラックなことをしている人たちを企業として認めてはならない」と解説され、納得できました。

話は拡がり本題の「アベノミクスを斬る」というテーマに。日本国を強くする目的のアベノミクス、一体、何に対して強くしたいのか、先生独特の言い回しで解説していただきました。

こんな世の中だからこそ、我々が持つべきものは①他人の声を聞く「耳」②涙する「目」③さしのべる「手」、であるとのこと。

「人権の礎、平和と表裏一体でなければ経済発展はない」という先生の言葉は、日々を見直す良い機会にさせていただきました。

(日本テレビ労組 曾我有紀子)

〈1日目分科会②〉

「均等法から30年 今こそ女性が輝くとき!？」

働く女性を取り巻く環境が変わるのは政界とマスコミ界が一番最後なのでは...そんな危機意識と、村木さんの確かなデータに裏付けされたお言葉にとても盛り上がりました。人口減少社会を前に女性が社会で働くことはとても大切、それは「女性が働いている率が高いと出生率も高くなり、また経済効果も高い傾向にある」というデータからも一目瞭然。実際、ワークライフバランスの取り組みやフレックスタイム制度の導入など、子育て中の女性であっても働きやすい環境への取り組みを行った企業は一定期間後に生産性の大きな上昇が見られているそうです。

だから女性が働きやすい環境を作るのは女性のためだけでなく、社会にとっても有意義であり必然な事。「男女雇用均等法」は差別しないが応援もしない、というスタンスだったが、これからは女性がちゃんと働いているか、女性が活躍できているかがポイントになるのではないかと、それができれば社会は成長できるだろうというご意見に、とても共感しました。

(テレビ東京労組 川村庄子)

〈1日目分科会③〉

「キレイなだけの美魔女はNG! まわりから求められる『オモロイ女』になるために」

著述家の湯山玲子さんに、ご自身の職歴、多くの文化に触れて得た女性論、女性が身に着けるべきものについて伺いました。

「美魔女、について湯山さんの第一声は「みんな、美魔女嫌いでしょ?」。彼女たちは自己承認欲が強く、SNSの「いいね!」獲得に必死で、他人は自分を褒める道具でしかないと、尊敬されず浅ましく見えるという考察でした。確かに、年齢のせいで謂れのない侮辱をされないように、化粧品や服装を活用し自分をブランディングすることは大事。しかしもっと重要なのは、教養を身に着けることだと言います。

印象的だったのは「人間、死ぬときは孤独。残るのは人間関係と教養だけ」という言葉です。同じお金をかけるなら、若き日の自分にしがみつく努力より、人に会い、本を読んだり音楽に触れたりすることで、話の面白い女性を目指そう!

クラブ、音楽、旅行...あらゆる文化を横断し幅広い見識を備えた湯山さん、とっても「オモロい」、女性でした!

(テレビ朝日労組 本間智恵)

〈1日目分科会④〉

「お父さんがやるべきこと ~イクメン子育て術~」

元プロサッカー選手の水内猛さんをお招きし、お話を聞かせていただきました。

この分科会はずもとどのように子育てをすればよいのかわからないお父さんにアドバイスをするという趣旨で用意された分科会でしたが、水内さんの奥様が、TBSテレビの小倉弘子アナウンサーということもあり、放送業界で働く女性が子育てをしながら仕事とどのように向き合っているか、夫の目線からの体験談など、より身近な形で聞かせていただきました。

現在は子供番組をはじめ多くのテレビ番組に出演されている水内さん、小倉さんの仕事の大変さを十分に理解されていて、子育てにおいて自分に何が出来るかを常に考えているとのことでした。このような関係を築くためにもお互いにコミュニケーションを密にし、相手に伝えておきたいことは率直に伝えているということが印象的でした。

参加者からの質問では、子育ての悩みから結婚相手に放送業界の人はどうか?など多岐にわたり、水内さんからはギョーカイで働く女性へのエールをいただきました。

(テレビ朝日労組 古寺智和)

〈1日目分科会⑤〉

「カフェやレストランで、憲法を気軽に語りませんか？」

「明日の自由を守る若手弁護士の会」事務局長で、日本弁護士連合会憲法問題対策本部幹事の早田由布子さんを講師にお迎えし、

「憲法を気軽に知ってもらいたい」をテーマにお話を伺いました。

これまでの日本は憲法9条によって戦争を放棄し、自衛隊も戦力に当たらないと政府の解釈が示されていましたが、集団的自衛権の行使を政府が認めたことにより憲法9条は意味がなくなってしまうことを分かりやすく噛み砕いて説明下さいました。

さらに特定秘密保護法が施行された状態で集団的自衛権が行使されるとどのような影響が起こるか、その危険性を踏まえると、改憲は容認してはいけないと早田弁護士は訴えていました。

最後に参加者で感想を述べ合い、「平和ボケしていて集団的自衛権に対してあまり深く考えていなかった」という意見が目立ちました。早田弁護士は、自分は関係ないと思わず、自身の事に置き換えて憲法のことをもっと知り、考える人が一人でも増えてほしいので、メディアで取り上げて下さいと最後は和やかなムードで終わりました。

(東京支部連 大原さやか)

〈交流会〉

「TKPガーデンシティ品川」で行われた交流会は、テレビ朝日の本間智恵アナウンサーの司会でスタート。

民放労連関東地連の渡辺豊執行委員長の乾杯の後、各分科会の代表者が内容や感想などを報告。

交流会も参加して下さった講師の湯山玲子さんにも飛び入りでコメントをいただきました。

そして中盤は「絆とバトンタッチ」と題したリレートーク。元TBSの市川美根さんの司会で、元テレビ東京の宮崎絢子さん、広島ホームテレビの今泉裕子さん、テレビ西日本の槌谷志保さん、テレビ朝日の溝上由夏さんが登壇、OB・現役それぞれの立場から、ご自身の経験談や現在の労働環境などを話して下さいました。最後にラジオ沖縄の源啓美さんが、沖縄の現状や思いなどを語って下さいました。

52年の歴史と女性協のパワーを感じる交流会でした。

(テレビ東京労組 西山麻衣子)

〈2日目分科会①〉

あつまれ現場女子&男子！

「仕事と子育ての両立」、「長時間労働をなくすためにはどうすればいいか」、「非正規問題」など、7つのテーマの中から一つを選択し、グループトークを行いました。多くの女性が共通して抱えている悩みもあれば、職種や局の規模、あるいは世代特有の悩みも。働く女子の悩みはつきません。「結婚しても働き続けている女性の先輩がいない」という20代の悩みには「いまだに?!」と驚きの声上がり、「あなたがパイオニア、ロールモデルになればいいのよ」と40代からの心強いアドバイスが。問題・課題を挙げるだけであつという間に時間が経過し、まだまだ話し足りない！これからなのに！というところで終了となりました。それでも、女性同士(中には男性も)で同じテーマで話し合うことで、いま抱えている様々な問題を改めて見つめるきっかけになったと思います。また、今回は「現場」「オフィス」というくりのグループ分けでしたが、世代ごとのグループ分けでも活発な意見が出そうです。

(東北放送労組 畠山明子)

〈2日目分科会②〉

あつまれオフィス女子&男子！

それぞれの職場でがんばっている仲間が7つのグループに分かれ、話をしながらテーマを決め、解決に向かうという分科会。各グループとも、今抱えている悩みや課題を率直に話合ううちにトークがどんどんヒートアップし、30分というセッション時間では足りないほどの盛り上がり。「女性の地位向上」「仕事と子育ての両立」「長時間労働をなくすために」「非正規問題」と、7グループでこの4つのテーマが取り上げられ、みんなが抱えている問題が共通であることを再認識しました。

私のグループのテーマはその立場の方が2名いたこともあり「非正規問題」。各々の体験や日々感じていることをぶっちゃけトークできたことで、最初はこの会に参加することが積極的でなかったお二人もどんどん意見が出て、「今回参加して本当に良かった」とおっしゃられ、自分のすべき事をみつけられたようでした。

どのテーマも簡単には答えが出せなかったものの、各テーブル毎に少しでも解決への糸口が見え、話ができる仲間ができたことで、今後の交流が楽しみになる、とても有意義なセッションとなりました。

(近畿地区労組 FM802分会 平石 波津美)

〈2日目分科会③〉

ドキュメンタリー試写会

「それでも希望のタネをまく 福島農家2年めの試練」

テレビユー福島制作部長の深谷茂美さんが制作された表題のドキュメンタリー番組を見せていただきました。長年取材されてきた菅野さん一家に突然訪れた震災と原発事故、そして農地の放射能汚染。二十年以上かけて作った有機栽培のための大切な土を一切無駄にしたい思いから、表土を削りとらずに農地を復活させるための研究、水田へ入る水路の水を浄化させるためゼオライトによるろ過など、農業への強い情熱が伝わってきました。最後にQABさんのご協力で辺野古基地建設反対市民の活動とそれを阻止しようとする国側について取材した短いVTRが上映されました。来年の沖縄で我々が何を聞きすべきか、福島も沖縄も、現地で丁寧に取材されていてもなかなか全国まで発信されていないことを参加した全員が改めて感じ、考えさせられる内容でした。

(日本テレビ労組 足立美香)

〈2日目全大会〉

女性のつどい二日目の全体会では、直前に行われた分科会の熱気をそのままに、充実した二日間のつどいをまとめる会になりました。

次回開催地の沖縄地連の金城わか菜さんより、来年のつどいでは沖縄ならではの内容でみなさんをお迎えしますので、沖縄にめんそーれ！と元気な呼びかけがありました。

最後に発表された大会アピールでは、女性はライフステージの変化で時間制約がある働き方になるケースが多いが、今後は介護、メンタルなどの理由で、時間制約がある働き方をする人は男女問わず増えると言われており、働き方を変えることは、私たちの重大なテーマであることを確認するとともに、今年度のつどいのスローガンにもあるように、女性からギョーカイを変えて、仕事も幸せもあきらめないことを誓いました。

(フジテレビ労組 岸田花子)

〈女性のつどい実行委員から〉

全国から167人もの皆様にお越し頂き、誠にありがとうございました。途中、地震が発生したり、一時ヒヤッとする場面もありましたが、無事に2日間の日程を終えることができました。各所からのお力添えの賜物だと、実行委員一同心より御礼申し上げます。

熱いご講演を頂いたビッグネームぞろいの講師陣からも、ワークショップ等で積極的に意見を交わす参加者の皆様からも、働く女性のパワーを肌で感じるつどいとなりました。

1年後の沖縄では、さらにパワーアップした女性の力を集結させましょう！

(日本テレビ労組 境田恭子)

